

北海道自家用新聞

北海道自家用自動車協会 連合会
編集兼発行人 辻 澤 英 隆
札幌市東区北三ノ条一丁目(郵便番号 060-0003)
電話 (011) 721-4578

運転支援機能の表示に関するアンケート

自動公取協 「作動条件」過信「誤認」の回答半数以上

自動車公正取引協議会(自動車公取協)は、会員事業者と消費者を対象に実施した「運転支援機能の表示(説明)に関するアンケート」の調査結果をまとめた。これによると、消費者が運転支援機能の作動条件を過信していたり、誤って認識している割合が、回答の半数以上であることが分かった。ユーザーが正しく機能を理解し、安心して運転できる環境を提供するためには、新車や中古車の商談時や納車時に、販売店での丁寧な説明が必要となっている。

運転支援機能について、あなたはどのような状況で作動するものだと思いますか？(単一回答)

	単位: % (左欄: 購入経験者 / 右欄: 購入未経験者)					
	ある	ある程度ある	ある程度ない	よくわからない	よくわからない	よくわからない
自動ブレーキ	28.8	34.2	26.5	25.0	37.4	34.2
衝突被害軽減ブレーキ	23.0	27.4	24.3	33.8	44.2	33.3
ペダル踏み間違い時加速抑制装置	27.2	36.0	23.1	27.4	40.0	30.1
車線逸脱抑制装置(レーンキープ)	20.9	21.8	29.4	36.3	40.8	36.9
全車速追従機能	23.4	18.6	26.9	40.7	40.7	37.2
自動運転機能	23.6	26.4	32.9	37.1	34.2	30.8
駐車支援機能(オートパーキング機能)	17.6	22.2	33.7	38.9	38.0	35.2
同一車線自動運転機能	22.4	26.3	30.6	35.6	41.8	37.3
ハンズオフ(手放し)機能	17.5	20.6	37.3	37.3	36.5	37.3

出典: 自動車公正取引協議会

アンケートは、直近2年以内に運転支援機能などを装備した新車または中古車を購入した消費者30人と、同機能の搭載車が未保有かつ、今後1年以内に新車または中古車の購入意向がある消費者30人を抽出。10~70歳の男女計60人を対象にウェブ方式で実施した。

新車または中古車を購入した消費者を対象とした質問のうち、運転支援機能について説明を受けて理解できたかという設問では、「理解できた」が89・9%、「理解できなかった」は9・6%、「その他」が0・4%だった。納車時の説明時間は「15分以内」が45・4%、「30分以内」が20・0%と全体の約6割を占める一方、「説明なし(0分)」が28・6%にも及んでいる。ユーザーが正しく理解していることをスタッフが把握して説明を省略したと推測されるが、自動車公取協では「他の説明時間が長くなり、実際の現場で運転支援機能を丁寧に説明しているかは不明」とも指摘している。

運転支援機能がどのような状況で作動するかについて、購入経験者と未経験者の全体では「一定の条件下で作動するが、基本的には運転者が操作する必要がある」と機能を正しく理解している消費者は、「自動運転機能」で約3割。「衝突被害軽減ブレーキ」と「車線逸脱抑制装置(レーンキープ)」で4割弱など、他の運転支援機能についても、作動条件を正しく理解している消費者は半数以下だった。

一方、すべての機能について「あらゆる状況においても作動する」で、運転者は操作する必要がない、「必要に応じて運転者が操作する必要がある」と答えた消費者は購入経験者で約5割以上、購入未経験者は約6割以上だった。機能を過信、もしくは誤認している消費者が一定数いることが裏付けられる。

また、購入経験者と購入未経験者に、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などの機能を、何で知ったかを聞いたところ、トップは「テレビCM(コマーシャル)」が最も多く、次いで「テレビやインターネット、新聞などのニュースや記事」、「自動車販売店の営業スタッフの説明」の順で続いた。テレビCMやニュースなどの影響により、消費者の過信や誤認にもつながっている可能性がある。自動車公取協ではディーラーや中古車販売店に向けて、作動条件などを丁寧に説明していくよう要望している。

また、「消費者は自動車メーカーへの信頼感が高く、安心感もある中で、機能が優れていると認識しているようだ」と推測する。表現を信じて過ぎないよう、引き続き広告で機能には限界があるなどの注意喚起の表示の徹底も求めている。

以前よりディーラーや自動車関連団体は、店頭や外部イベントなどで、衝突被害軽減ブレーキをはじめとする各機能の同乗試乗会も実施している。地域の交通安全教室などを通じて、運転支援機能の周知も進んでいる。消費者がさらに正しい認識を持つには、こうした取り組みでももうひと工夫が必要と言えそうだ。

「大阪・関西万博」開催記念ナンバー 事前申し込みを開始 3年間の期間限定交付 国交省

国土交通省は、2025年の日本国際博覧会(大阪・関西万博)の開催を記念した特別仕様ナンバープレート(1トンの事前申し込み受け付けを9月26日から開始した。交付は10月24日から。25年12月26日まで約3年間の期間限定で、全国で交付する。図柄ナンバー申し込みサービスの専用ウェブサイトを交付窓口などで申請を受け付ける。新車、中古車の

購入時に加え、現在保有する車両も特別仕様ナンバープレートに交換できる。交付料金は地域によって異なり、全国平均は8413円(消費税込み)。

フルカラー版(寄付金あり)とモノトーン版(寄付金なし)の2種類を用意する。寄付金(1千円以上)は、大阪・関西万博に関する交通サービスの充実などに充てる予定。

2022年秋から全国で交付

大阪・関西万博 特別仕様ナンバープレート

大阪・関西万博のワクワクを、感動を、あなたの車に!

期間限定 申込受付開始日 令和4年 9月26日から 交付開始日 令和4年 10月24日から 交付終了日 令和7年 12月26日まで

大阪599 20-25

大阪589 20-25

ご自分でWEBからお申込み またはお近くのディーラー・整備工場等にご相談ください。

WEBからのお申込みは 図柄ナンバー申込サービス 販売

<https://www.graphic-number.jp>

国土交通省

軽自動車OSS 新車も対象に

来年1月 納税証明も省略可能 4日から

軽自動車検査協会(軽検協)は、軽自動車保有関係手続きのワンストップサービス(OSS)の対象手続きについて、2023年1月4日から新車(新規検査・税申告)OSSを全国で開始すると発表した。これまで継続検査のみだった対象手続きを拡充することで、自動車関連事業者などの業務効率化や軽自動車のOSS利用拡大につなげたい考えだ。継続検査時の納税証明書の提示も同日から省略可能とする。

来年1月から新たに拡充する対象手続きは、①新規検査の電子申請・検査手数料・技術情報管理手数料・自動車重量税の電子納付②軽自動車税種別割の電子申告③軽自動車税環境性能割の電子申告・電子納付④の新車購入時における軽自動車保有関係手続となる。軽検協、地方自治体、地方税共同機構が共同で運用を行う。



対象手続きの拡充で、自動車関連事業者などの業務効率化や軽自動車のOSS利用拡大を期待する

政府は、24年1月から軽自動車の自動車検査証(車検証)の電子化を予定する(登録車は来年1月から開始)。整備事業者などが専用アプリを使って電子車検証への記録などを国に代わって行うことができる「記録等事務委託制度」を始めるなど継続検査の事務手続でもデジタル化が加速する。こうした流れも背景に、軽自動車の新車OSSが運用開始されることで、自動車関連事業者の利便性はさらに高まる。

アンテナ

コロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵襲で食料や日用品サービスエネルギーなど各分野の値上げが相次いでいる。この状況下で価格上昇を抑え、消費を促す商品がある。その商品とは、スーパー総菜の「すし詰め合わせ」。経済紙の夕刊で、分かりやすく解説していた。

庶民の小さな贅沢である「すしの詰め合わせ」の価格を調べる。確かに、あまり前と変わらないうえ、鮮魚価格が上昇しているにもかかわらず、それほど上がっていない。特に中古車は変幻自在だ。「高級車」から「格安」まで、さまざまな店舗、車両の形態が存在する。

国交省

新たに駐車ブレーキなど5項目

車検時の
OBD活用

来年4月から確認可能に

国土交通省は、自家用乗用車の車検時の確認項目について、2023年4月から駐車ブレーキなど5つの点検項目で車載式故障診断装置（OBD）を活用した確認方法を認める。OBDを活用して車両の安全性が従来の点検方法と同様に確認できることなどを踏まえて見直した。OBDを備えた車両の普及に伴い、車両状態を把握できる範囲の拡大や不具合・故障データの活用などが見込まれている。今後も技術開発動向などに応じて、車検時や法定点検時の確認方法の見直しを検討する。

近年、OBDを搭載した車両が増加してきたことなどを踏まえて、国交省は21年8月に「自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会」

を設置。車検時の確認方法などについて見直しを検討し、今年3月に中間とりまとめを公表した。これに基づき、道路運送車両法に定めた「自動車の点検及び整備に関する手引」の一部を改正する告示を10月に公布する。

目視などで直接確認する従来の点検方法だけでなく、OBDを活用した確認方法も認めるのは、「駐車ブレーキ機構の引きしろ」「トランスミッション、トランスファのオイル漏れ、オイル量」「燃料蒸発ガス排出抑制装置のチャコール・キャニスタの詰まりと損傷」「タイヤの空気圧」の5つ。

燃料蒸発ガス排出抑制装置について、インタンク式のチャコール・キャニスタを装備した車両は、メーカー指定の方法で確認することとする。タイヤの空気圧は、タイヤ空気圧監視装置（TPMS）を装備した車両についてOBDを活用した確認も可能とした。

同手引の一部改正と合わせて、自動車点検基準の一部改正も行う。電動

北海道運輸局が事故防止セミナー

運送事業者ら対象に

北海道運輸局は、札幌地方自動車整備振興会で「令和4年度自動車事故防止セミナー」を開いた。交通事故による死者や重傷者、人身事故件数などの削減を目標に掲げる「安全プラン2025」の一環として実施

し、運送事業者の関係者ら約40人が参加した。交通安全への意識を高め、事業用自動車の事故防止を図った。冒頭のあいさつで、道運輸局の岩城宏幸局長は「輸送の安全確保の重要性について再認識し、管理体制の充実化などを通じて、安全な社会の礎としてほしい」と述べた。

はじめに、国土交通省自動車局安全政策課の担当官が「事業用自動車総合安全プラン2025とその取り組みなどについて」をテーマに講演。続いて、北海道フォース輸送の須貝英富安全推進部長は「当社が取り組む事故防止対策について」、自動車事故対策機構札幌支所の高橋昭憲アシスタントマネージャーが「乗務員一人ひとりが自ら安全考動できる企業文化の醸成について」と題してセミナーを行った。

OBDで車両状態を確認できる項目の拡大や不具合・故障データ活用などが見込まれる



子制御方式が主流となった点火装置について、従来の機械式制御方式の点火装置で必要とされていた確認項目「点火時期」「デイストリビュータのキャップの状態」が不要となっていることから、定期点検を行わなくても良いこととする（二輪車を除く）。ただし、機械式制御方式を採用した車両も少数ながら存在することから、該当車両については今後も継続的に点検が行われるように措置する。

同検討会では、OBDの活用について「車検時」「法定点検（1年点検）時」「日常点検時」で安全確認方法の見直し案を整理した。それぞれの実施項目のうち「今年度も引き続き検討を行うもの」と「検討の結果変更しないもの」が大半を占めた。今回の検討では変更を行わないと判断した実施項目についても「今後の技術の進化に応じて見直しを検討する」との考えを示した。

● 高齢者向け安全運転支援 ●

走行記録から癖やリスク解析

豊田市で実証実験

トヨタ・モビリティ基金とデンソー、東京海上日動火災保険、東京大学は、愛知県豊田市で高齢者の安全運転支援を目的とした実証実験を10月から開始した。車両に装着したドライブレコーダーの運転データを人工知能（AI）が分析し、断結果とアドバイスをを行う。豊田市在住の60歳以上のドライバーを対象に3千人程度が参加し、2024年4月まで実施する。

参加者は4カ月間、ドライブレコーダーをマイカーに装着して運転データを記録する。カメラの映像とセンサーデータを、デンソーが開発したAIによる画像解析技術などを用いて診断する。

現場探信

電動化や先進運転支援システム（ADAS）の普及によって新車価格はじわじわと上がっている。総務省が公表している小売物価統計調査によると、2021年の軽乗用車の平均販売価格は15万7405円で、5年前の16年比21%、約27万円上昇した。

価格上昇は性能向上によるものが大きく、自動車メーカーなどは値上げとは表現しない。それでもユーザーからみれば、購入する新車の価格が上昇していることに変わりはない。「中身をしっかりと知ってもらえば、お客さんは納得する」（新車販売店社長）。従来以上にユーザーが納得できる説明力が問われている。

「今年にはフォルクスワーゲン（VW）にとって重要な年。新型電気自動車（EV）の『ID. 4』は、日本におけるVWのEVシフトを象徴する第1号となる」と話すのは、フォルクスワーゲングループジャパン（VGJ）のアンドレア・カルカーニブランドディレクター。VWではこれまで「e-ゴルフ」を販売するなどEVの取り組みは初めてではないが、今回の新型車の投入をもってEV商品群の本格展開に乗り出す構えだ。

年末までの国内導入を目指す方針として、販売体制の整備も急ピッチで進める。「立ち上がりは150店舗ほどで取り扱うとともに、基礎充電などを含めた包括的な充電パッケージも提案したい」と、EV販売を契機とする新たな付加価値の訴求にも意欲を示す。

「しんらい」と「あんしん」をお届けします。

北自共の総合自動車共済・自賠責共済

全道に安心のサービス拠点

1事故1担当者制

1つの事故に対して1人の専任担当者が担当

充実のロードサービス

24時間365日対応・等級に影響なし

安心の事故対応力

事故解決の専門家が素早く対応



あんしん・ゆとり・たすけあい みなさまのカーライフをサポートします!!

北海道自動車共済協同組合

〒065-0030 札幌市東区北30条東1丁目3-2

☎011-721-5233

電話の受付時間 平日9:00～17:15

FAX:011-721-0801

<https://www.hokujikyo.jp>



新しい技術と信用のトップメーカー

自動車ナンバープレート

小松自動車工業株式会社

札幌営業所
及工場

札幌市東区北30条東1丁目1-1
〒065-0030 電話 011-752-8592(代表)

本社
及工場

東京都品川区東品川4丁目8番12号
〒140-0002 電話 03-3474-0211(大代表)



釧路市と弟子屈町でサポートカー試乗会開催

6販社が協力 先進安全技術を体験

釧路市は、交通安全活動の一環としてサポートカー試乗会を釧路市役所防災庁舎前広場で開いた。釧路市としては初の試み。自販連釧路支部を通じて、ディーラー6社が協力。市民ら延べ73人が衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術を体験した。併せてハイブリッド車による給電デモンストレーションも行った。

高齢運転者の交通事故増加が社会問題化する中、事故防止効果が高いサポートカーの有効性を広く知ってもらうために企画。釧路トヨタ、トヨタモビリティ釧路、ネットトヨタ釧路、帯広日産、釧路スズキ、北北海道ダイハツが参加した。



釧路市で行われたサポカー試乗会

体験内容は衝突被害軽減ブレーキ（担当＝帯広日産・車両＝リーフ）、ペダル踏み間違ひ急発進抑制装置（釧路トヨタ・ヤリス、釧路スズキ・ワゴンRスマイル、北海道ダイハツ・ハイゼットバン）、そして給電車デモ（トヨタモビリティ釧路・RAV4PHV、ネットトヨタ釧路・カローラクロスHV）。

釧路では老人クラブごとに交通安全活動の推進役となる「交通安全シルバリーリーダー」があり、その研修としてシルバリーリーダー12人もサポートカーに同乗体験した。高齢者のネットワークで影響力のあるシルバリーリーダーがサポカーのメリットを

み間違い急発進抑制装置の体験を担当。釧路スバルは「レガシニアウトバック」で、釧路スズキが「スベシア」で、それぞれ衝突被害軽減ブレーキの同乗試乗を実施した。各社のスタッフは、展示車を前に先進安全機能のメリットをアピールした。

当日は雨天のため開催時間を短縮したが、老人クラブや交通安全ボランティアなどの関係者を中心に想定していた規模の来場となり、サポカーへの関心の高さを示した。

弟子屈警察署の渡部真大地地域交通課長は「サポカー体験した方の生の声を交通安全活動に生かしていきたい。こうした試乗会はディーラーを通じて、運転者とメーカーをつなぐ架け橋になる」と語った。

高齢者の交通事故対策は大きな課題だが、自動車販売店組織と警察による高齢者交通事故防止の協定は全国でも数少なく、道内は釧路地区だけ。サポカー普及に向け、これから他地区にも取り組みが広がるものとみられている。



弟子屈町では雨天の中でも多くの人々が来場

車いす用駐車施設の不適切な利用排除へ

国交省、ガイドラインを策定

国土交通省は、車いす使用者用駐車施設の適正利用の推進を図るためのガイドラインを策定すると発表した。車いす使用者などが同乗した福祉車両の優先駐車区画で、本来は必

要としていないドライバーが利用する不適正駐車が課題となっている。このため検討会を設置し、適正利用に関するガイドライン案などを検討する。

総務省が発表した8月の全国消費者物価指数（2020年＝100）は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が102・5と、前年同月から2・8％上昇した。◆上昇率は消費税増税が影響した14年度を除けば、1991年9月（2・8％）以来、30年11カ月ぶりの高さとなった。◆原油高などによる電気代、ガス代といったエネルギー価格に加え、円安の影響で原材料や輸送コストが増大した食料品の伸びが加速。物価が上昇しているにも関わらず、賃金が伸び悩んでいる。◆悪化している。◆91年9月といえはバブル景気も後退期に入り始めていた時期だが、人々の消費活動もまだまだ盛んで労働者の賃金も増えていた。今の物価上昇はバブル崩壊後で最も高い水準に近づいてきたが、企業の内部留保ばかりが膨らんでおり、従業員の賃金に還元されているとはいえない。◆1ドル145円の円安水準では家庭の負担が一世帯当たり年間10万円ほどになるとの試算も聞く。政府は今月末で期限を迎えるガソリン補助金を年末まで延長することなどを盛り込んだ約3兆5千億円の物価高対策を打ち出したが、10月以降、さらに物価上昇が続くとされる中で、食品や燃料費など生活に必要なモノの価格が上がっていく。節約するにも限界がある。

学識経験者や障害者団体、事業者団体、地方自治体などの関係者が構成する「車いす使用者用駐車施設などの適正利用に関するガイドライン作成に係る検討会」を設け、9月に初会合を開催。自治体などでの取り組み事例を共有するなどした。国交省では昨年度に開催した「車いす使用者用施設などのあり方に関する検討会」がとりまとめた中間整理を踏まえて、ガイドラインの策定を進める。

介護制度のご案内

交通事故により重度の後遺障害（脳損・脊損）を負い介護を要する方へ、国の資金により介護料を支給致します。

- ☆ 対象者 自動車(バイク含む)事故により、脳、脊髄、または胸腹部臓器に損傷を受け、常時または随時の介護を必要とする方で一定の要件に該当する方(自損・他損は問いません)
- ☆ 支給額 月額 36,500円～211,530円の範囲で、障害の程度等に応じて支給
- ☆ 注意 介護保険サービス、労災の介護給付等との併用はできません

《詳しくは》
独立行政法人 自動車事故対策機構釧路支所
〒085-0018 釧路市黒金町7丁目4番地1 太平洋興発ビル2階
電話 0154-32-7021へ ホームページ「ナスバ」で検索
専用駐車場はありませんのでお車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。
なお、駐車料金はお客様のご負担となりますのでご容赦下さい。

運転適性診断をご利用ください ～ 事故防止のために ～

自動車事故を防ぐには、まず運転に繋がるくせを知ることが大切です。そのために、ぜひ「適性診断」をご利用ください。
カウンセリングやアドバイスを行うものも用意しております。

診断の種類等

- ◆ 一般診断（診断のみ） : 2,400円 …… 所要時間 約60分
- ◆ カウンセリング付き一般診断 : 4,800円 …… 所要時間 約90分
- ★ 1日4回実施しており、予約制となっております。

《詳しくは》
独立行政法人 自動車事故対策機構釧路支所
〒085-0018 釧路市黒金町7丁目4番地1 太平洋興発ビル2階
電話 0154-32-7021へ ホームページ「ナスバ」で検索
専用駐車場はありませんのでお車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。
なお、駐車料金はお客様のご負担となりますのでご容赦下さい。

ハイヤー・タクシーでの忘れ物・お問い合わせは

☎ 0154-51-2173

釧路地区ハイヤー協会

〒084-0906 釧路市鳥取大通6丁目1番1号(自動車会館3階)

釧路ハイヤー協同組合発行 便利なタクシーチケット お支払いはスムーズ!

お問い合わせは ☎ 0154-52-1331

釧路ハイヤー協同組合

〒084-0906 釧路市鳥取大通6丁目1番1号(自動車会館3階)

令和4年度第2回整備管理者 選任前研修開催のお知らせ

日 程 表		各回とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます(各回定員50名)	
	開催日	受付時間	研修時間
第2回	令和4年11月24日(木)	13時から13時半	13時半から16時半迄
	支 局 整 備 課 に お 問 い 合 わ せ 下 さ い 。 T E L : 0154-51-2523		
会場	釧路市生涯学習センターまなぼと幣舞7階学習室(705・706号室) 釧路市幣舞町4番28号		
第1回 (次年度)	令和5年5月(予定)	13時から13時半	13時半から16時半迄
会場	未定		
	未定		

◎ 研修対象者

整備の管理を行うとする自動車と同種類の自動車の点検若しくは整備又は整備の管理に関し2年以上の実務経験を有する者

◎ 申込方法

- 1 研修の約1か月前から釧路自動車協会ホームページのトピックスに選任前研修のお知らせが載ります。そこから申込用紙をダウンロードして下さい。
- 2 ホームページから申込書と案内文をダウンロードしてご記入が終わったら、必要な書類（運転免許証のコピー）を貼付して下さい。
- 3 ご記入後の申込用紙は、協会窓口・FAX・郵送にて受付しています。

◎ 注意事項

・こちらからの申し込み完了のご連絡は致しておりませんのでご了承ください。

※申込先及びお問い合わせ※

一般社団法人 釧路自動車協会
〒084-0906 釧路市鳥取大通6丁目1番1号
TEL 0154-51-3254 FAX 0154-53-2026
担当者 北川・久田 まで

● 当協会ホームページ ● <http://www.senjikyoo.jp>

● お問い合わせ ● 9:00～16:50（土日祝祭日、当協会が定める祝日を除く）



北海道運輸局釧路運輸支局では、8月25日（木）と9月12日（月）の午後1時20分から約1時間にわたり、国道38号線沿いの釧路運輸支局自動車検査場において、「自動車点検整備推進運動」の一環として恒例の街頭検査を実施した。

新型コロナウイルスの関係で規模を縮小し、感染予防に十分配慮しての街頭検査となった。

釧路警察署の応援を得て、釧路運輸支局の担当職員をはじめ釧路地方自動車整備振興会、日本自動車販売協会連合会釧路支部、釧路自動車協会、各自動車整備工場の検査員などの関係団体のスタッフが協力し、車両の検査が実施された。約1時間にわたって行われた街頭検査では、国道38号線を走行する自動車など2日間で合計105台を無作為に釧路警察署の署員が釧路運輸支局の検査場敷地内に誘導し、スタッフが専用機器を使用して排気ガスの濃度確認（法で定められた一酸化炭素「CO」・炭化水素「HC」濃度が基準値以下か）や近接排気騒音の確認や目視でランプ類の灯光の色・点灯状況・点滅状況・破損状況等、その他違反が多い箇所を重点的に検査した。

今回の街頭検査でも依然として違反が多く目立ち、警告が2日合わせて4台であった。警告及び注意を受ける車両が後を絶たないのは非常に残念である。

ほか、電球の不点灯が多く後続車又は対向車にとっては合図の見落と

実施結果	
①検査車両数	8月25日 51台 9月12日 54台
②警告件数	8月25日 3台 9月12日 1台

《主な不適合箇所》
①各種灯火類球切れ等
②回転部分の突出

「自動車点検整備推進運動」の一環



「広告をデジタルに振り過ぎたと少し反省している」と話すのは、三井ダイレクト損害保険の河村隆之社長。社会の変化を踏まえ、ここ数年間はテレビなど従来のメディアを使った宣伝を減らし、ウェブ広告に重心を置いてきた。有名芸能人を起用したCMにも消極的だった。しかし自社の知名度を調査すると思ったようなレベルには達してない

ことが分かった。今後は従来メディアを活用した宣伝にも力を入れ、広くさまざまな人に自社をPRする方針。「有名芸能人を起用したCMも考えている」と話す。11月には自動車保険の新商品を投入する。事故対応の水準など自社のサービスには自信を持っており、「今まではおとなしく遠慮がちなどころがあったが、これからは当社の良いところをしっかりと伝えていきたい」と語る。

釧路整振、釧路工業高校で出前授業 HVなど最新モデルを揃え

釧路地方自動車整備振興会（濱屋俊明会長）は、釧路工業高等学校で「出前授業を実施した。釧路トヨタ、ネットヨタ釧路、東北海道ホンダ、東北海道日野が協力し、スポーツカーやハイブリッド車、大型トラックまで最新モデルをそろえ、現代の自動車技術を見て触れて体感した。

最新の自動車技術や知識を学生に身に付けさせたいという同校の要望と人材確保に取り組み釧路整振の方針が一致し、3年前から出前授業を年1回開いている。電子機械科の1年生39人の生徒を対象に、午前8時55分から12時45分まで正規の授業として行う。1時間目は全員で自動車業界や整備士の基本的な知識を釧路整振職員から講義を受けた。その後は4グループに分かれ、40分単位でディーラー4社の各授業にローテーションで参加した。

ディーラー各社は学生に最新の技術を伝えようと、多彩なニューモデルを持ち込んだ。釧路トヨタはランドクルーザー（300）とGR86、ネットヨタ釧路はヴォクシーハイブリッドとベンチエンジン、東北海道ホンダはヴェゼルe:HEVとステップワゴン、東北海道日野はレンジャーのキャブシャーシと走る整備工場ともいえるレンジャーサービス



GR86のアクセルフィーリングを実感

同校電子機械科科長の寺谷淳希教諭は「学生のクルマ離れは目立つが、出前授業の取り組みで変化してきた。1年生の時に受講した今の3年生の中には、将来の選択肢として地元自動車業界を考える学生が増えた。コロナ禍の影響もあり、地元志向が強まっている」とし、今後も出前授業を継続したい考え。

釧路整振の山澤晃彦常務は「クルマに興味を持ってもらうことが第一歩。1人でも多くの学生に職業としての自動車整備士を意識してもらえば」と語った。

【安全運転は運転経歴証明書から】

- ◎ 交通事故・違反防止に対する職場の連帯感が生まれます
- ◎ 交通事故処理等に費やす無駄な労力、保険料の減少も期待できます
- ◎ 必須アイテムとして多くの企業が安全運転管理に利用しています
- ◎ 1年以上無事故無違反者にはSDカードが交付されます



SDカードは定型優遇店が全国にあり割引制度等の特典があります
詳しくはホームページをご覧ください
(<http://www.jsdc.or.jp>)

申請方法 代表者が委任を受けて一括申請することが出来ます。申請手数料1通670円です。
詳しくは、下記事務所にお問合せ下さい

自動車安全運転センター北海道釧路方面事務所

〒085-0018 釧路市黒金町10丁目5の1
北海道警察釧路方面本部1階 TEL0154-25-7171



JAF入ってますか

JAF会員の路上故障は年中無休24時間体制です。
▶ ご入会は、お近くのJAFか自動車販売店へ ◀

ご入会になるとこんな特典があります。

JAFロードサービスを会員の方がご利用になると・・・

救援時の基本料・作業料（30分以内）・けん引料（15kmまで）は無料です。
その他、機関誌（JAFMATE）の配布・スポーツライセンス等の業務もおこなっています。

- ・ 入会金 2,000円
- ・ 年会費 4,000円は安心料です。

一般社団法人 日本自動車連盟 釧路支部

〒084-0906 釧路市鳥取大通8丁目2番11号 TEL.0154-51-2167